

経済・金融 フラッシュ

インドネシア 10-12 月期GDP: 前年同期比+6.5% ～消費は堅調を維持、投資はさらに活性化も

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 内需が好調

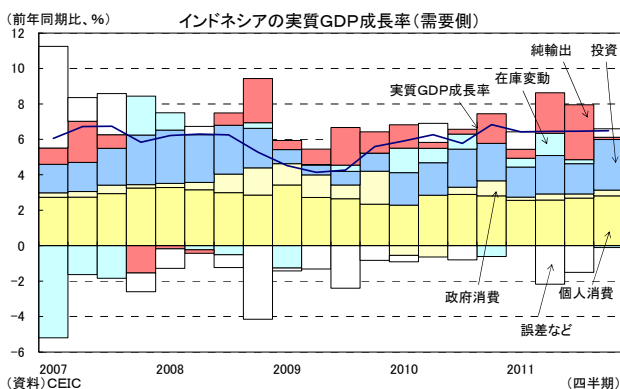
インドネシア中央統計庁（BPS）は2月6日、10-12月期の国内総生産（GDP）を公表した。実質GDP成長率は前年同期比（原系列）で6.5%の増加となり、順調な成長を続けていることが明らかになった。2011年通年での成長率は前年比+6.5%となり、2010年の同+6.2%より成長が加速した。世界経済の成長が鈍化しており、外需にマイナス要因を抱えながらもインドネシアは成長を維持したと言える。

成長率の内訳を需要別に見ると、今期は内需の強さが顕著に表れている（図表1）。外需に関しては、輸出が前年同期比+7.9%と前期（同+17.8%）から減速し、純輸出の成長への寄与は0.1%ポイントにとどまった。一方で、内需が外需の不振を補っており、全体の成長率としては前期と同じペースを維持できている。内需のうち個人消費は前年同期比+4.9%と前期（同+4.8%）に続いて好調であった。また、投資は前年同期比+11.5%と、リーマンショック以降では初の2桁成長を実現している。

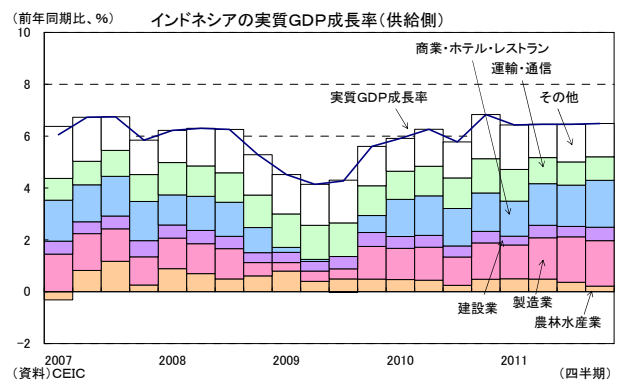
供給側では、主力サービス産業である商業・ホテル・レストラン業が前年同期比+10.2%と2桁成長を遂げた。この他、運輸・通信業や建設業もそれぞれ前年同期比で+9.2%、7.8%と拡大し成長の牽引役となった。また、GDPシェアの約4分の1を占める製造業も前年同期比+6.7%と堅調さを見せており、幅広い産業で成長は見られている。

一人当たり所得水準は耐久消費財が売れはじめると言われる3000ドルを2010年に突破したが、2011年には3500ドルも突破した。先進経済の低迷や、それに伴ってアジア新興国・地域でも成長が鈍化する国が多いなか、インドネシアは安定感のある内需の強さを有していると言える。

（図表1）



（図表2）



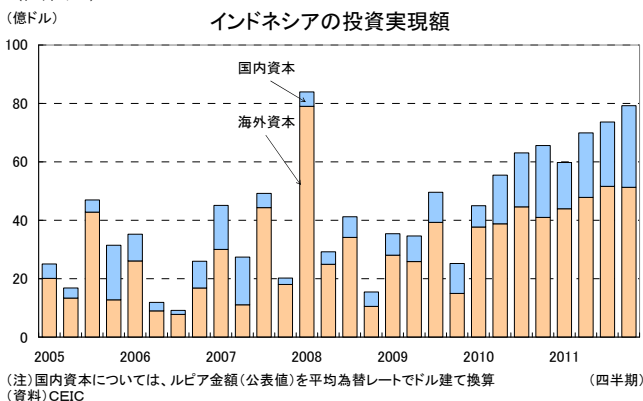
2. 投資は今後も加速する兆し

今期のインドネシアの成長は、個人消費や投資の強さに特徴があった。このうち個人消費については、所得上昇に支えられ近年は堅調な成長が持続している。一方、投資については、政府が2011年5月に「経済開発加速・拡大マスタープラン（2011-2025年、MP 3 E I）」¹を公表し、積極的に行う姿勢を見せていたものの、計画の執行力に疑問もあった。しかし、足元では投資促進に関する明るい話題も多くなってきている。

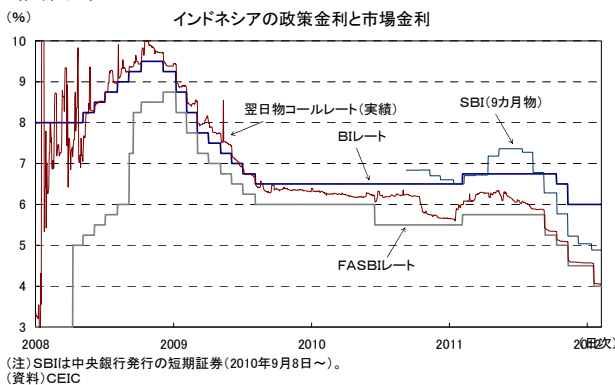
まず、インフラ事業の足枷と考えられていた土地収容に関する手続きに改善があった。昨年12月に、土地収容に関する新法案（用地収用法）が国会で可決した。これによって、建設投資の加速が期待される。また、格付会社のムーディーズとフィッチがインドネシアの格付を「投機的」から「投資適格級」に引き上げた²。大手格付会社のうち2社がインドネシアの格付を投資適格級に引き上げたことは、外資系資本による投資がさらに活性化する要因となる（図表3）。

すでに見たように10-12月期の投資は前年同期比で2桁の高成長を実現した。加えて、今後は上記の要因も追い風となり、さらに投資が加速する可能性もあるだろう。

（図表3）



（図表4）



3. インドネシアの金融政策

以上見たように、インドネシアの実体経済は堅調と見込まれる一方で、中央銀行は金融市場の安定化という課題に取り組む必要が生じている。

昨年後半からインフレ率が低下しているインドネシアでは、政策金利（BIレート）を引き下げるなどの金融緩和を行っている（図表4）。利下げによって、政策金利はリーマンショック時と比較しても低い水準となったが、他国と比較すると高い水準にある。加えて、実体経済の強さと格付の引き上げといった要因もあり、海外投資家がインドネシアの流動性の高い債券を買いやすい状況となっている。海外投資家による証券の購入が膨らむことは、インフラ投資など直接投資と異なり、売却が容易であるため、資金流出というリスクも抱えることになる。昨年、欧州危機によって新興国から資金が引き揚げられ、アジア市場が不安定化したように、再び混乱が生じる可能性もある。中央銀行には、こうした金融市場の混乱が生じないように管理する努力が求められている。

¹ インドネシアに6つある経済回廊における産業開発、インフラ整備などの投資計画（2025年まで）。投資総額は4000兆ルピア（うちインフラ事業は1700兆ルピア）。なお、2011年はこのマスタープランのうち約500兆ルピアの事業が着工を開始したと報道されている。

² フィッチは12月15日、外債建ておよび自国通貨建て長期発行体デフォルト格付けを「BB+」から「BBB-」へ引き上げた（見通しは「安定的」）。ムーディーズは、1月18日、外債建ておよび自国通貨建て長期債務格付けを「Ba1」から「Ba3」に引き上げた（見通しは「安定的」）。なお、S&Pの外債建ておよび自国通貨建て長期債務格付けは「BB+」で「投機的」ととまっている（見通しは「ポジティブ」）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。